



問 ミソジニー（女性蔑視）を克服するために、市長の考えは

「トイレットペーパーみたいに、生理用ナプキンをどこでも置いてほしい」この発信に殺害予告までするのは、女性の人権に関わる問題であり、ミソジニーに基づくものだ。歴史的な社会慣習に対して声をあげて行動する女性を嫌悪し、男尊女卑の規範を壊そうとする者を攻撃して黙らせようとするもので、男女共同参画社会とは相いれない。社会的に克服するために、市長の考えを問う。

答 性別に捉われないような意識への変化を促すための啓発が必要

ミソジニーとは女性に対する嫌悪や蔑視を意味する言葉であると理解しており、人権が尊重される社会、男女共同参画を目指す中において、当然許されるものではない。

この問題の根本には、男性・女性のいわゆる固定的な性別役割分担や男性が家を継ぐという家父長制といった意識の流れからくるものがあると理解しており、当然克服すべきものである。そのためには性別に捉われないような意識への変化を促す啓発が必要であると考えます。

その他の質疑・質問

- 防災備蓄品としての生理用品は、どこにどれだけ置かれ、どのように避難者の手元に届くのか
- 一身田地区のスーパーが閉店したが、買物困難者の実態を津市は把握し、打開策を考えているか
- デマンド交通導入の議論があるが、買物にも利用される必要なコミュニティバス路線は残すべき
- 大阪・関西万博への修学旅行等の見直しを など

移動販売事業は継続できてこそであり、自ら商品を見て品定めし、考える場としても重要



問 高野団地・小山台地の下水道管耐震化について問う

災害対策はリスクの分散化が重要であり、旧市町村の一部に偏らない下水道設備の更新が必要であると考えます。一志地域の高野団地および小山台地の下水道管は、整備されてから寿命とされる50年前後が経過しているが、設備の状況および耐震性に問題はないか。また、震災による緊急輸送道路のマンホールの浮上対策および災害拠点病院の下水道管の耐震性の状況は。

答 現在耐震化の計画はなく、適切な維持管理を行っていく

高野団地および小山台地の下水道管は、現在の耐震対策指針の基準を満たしていないが、旧一志町への移管時に異常箇所を修繕しており、現在まで大きな異常はなく比較的健全な状態にあることから、今後も適切な維持管理を行っていく。緊急輸送道路下に埋設された下水道管については、液状化の検討を行い、マンホール浮上防止対策が必要であると判断した場合は実施していく。また、災害拠点病院である三重中央医療センター周辺の下水道管は、標準耐用年数の50年を経過しておらず比較的健全な状態にあるが、地震等で不具合が生じた場合には最優先に修繕し早期復旧を行う。

その他の質疑・質問

- 波瀬川の防災対策について
- 波瀬川氾濫時の避難誘導について
- 災害時のデマ、フェイク画像対策について
- 災害時の燃料調達、衛生状態確保のための水および合併浄化槽によるトイレの確保について
- 産業政策としての奨学金について
- 教育施設の空調設備について

災害時に備えて配水池や耐震性貯水槽で約6,600万リットルの水を確保している

